

「紙製容器包装 3 R改善事例集 第14版」の発行にあたって

2005年10月の日本経済団体連合会による「実効ある容器包装リサイクル制度の構築に向けて」の提言を受けて、事業者は「3 R推進団体連絡会」を結成し、容器包装の素材グループごとに策定した自主行動計画も、現在では第3次となる自主行動計画2020（2016～2020年度）の最後の年を迎えております。本年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により人々の健康のみならず社会・経済や生活に至るまで幅広く影響を受け、依然として燻り続けている状況となっています。

国内の古紙市場は中国の廃棄物輸入規制の影響により、在庫が増え相場が下落する傾向となりました。2021年には、中国の古紙全般の完全輸入禁止措置も控えて、経済の低迷の影響なども併せて、今後の動向には留意する必要があります。

また、海洋プラスチック汚染問題対策の一つとして7月よりレジ袋有料化が施行されるなど、プラスチック資源循環戦略に関して基本的な方向性の検討がなされて具体的な施策へとステージを移す状況です。その中では、容リプラと製品プラをまとめてリサイクルするなど、容リ法の枠組みにまで影響がおよぶ可能性も否定できない状況です。

当推進協議会では自主行動計画の遂行の一環として、実績を上げている各社の成果を波及させ業界全体のレベルアップを図るために、紙製容器包装に係わる3 R改善事例集を毎年発行しております。今回の収集に当っては、プラスチック資源循環からも注目されている環境配慮設計に関して『紙化』を取り入れるなど、できるだけ広範囲にわたる3 R改善事例が対象となるよう心掛けました。3 R改善事例というと先ず軽量化・薄肉化などを思い浮かべますが、それ以外にも様々な手法や試みが実施されていることがご理解いただけると思います。

今年度は、2020年度の新しい3 R改善事例の他に、2019年度の3 R改善事例を掲載、容器包装3 Rのための自主行動計画2020（4年目）のフォローアップ報告もまとめ、第14版を編集いたしました。

お客様まで中身商品を安全に、品質を保ってお届けすることと、必要な商品情報を正確に伝えることが容器包装の最優先の機能ですが、その上で、個々の容器包装でどのような環境配慮が可能であるかを検討し実行することが求められています。

各社、各団体におかれまして、本誌が更なる3 Rの推進にご活用いただければ幸いです。

2020年12月
紙製容器包装リサイクル推進協議会